

別紙

ダイキョーニシカワ株式会社大和工場温室効果ガス削減実施状況報告書

1 事業の概要

- (1) 事業所の名称 ダイキョーニシカワ株式会社 大和工場
- (2) 事業所の所在地 〒729-1332 広島県三原市大和町上草井505番地
- (3) 業種 輸送機械器具用プラスチック製品製造業 (1832)

2 計画の期間

本計画の期間は平成21(2009)年度を基準年度とし、平成22(2010)年度から平成26(2014)年度までの5年間とする。

3 温室効果ガスの総排出量に関する数量的な目標の達成状況

《排出量を削減目標とする場合》

単位：排出量(t-CO₂)、削減率(%)

温室効果ガスの種類	基準年度の実績 (a) 平成21年度	目標年度 上段：目標 (b) 下段：削減率 (c) 平成26年度	計画期間の実績 (上段：原単位実績 (d)、下段：削減量の対基準年度比 (e))				
			平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
エネルギー起源CO ₂							
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)							
実績に対する自己評価							

※ 削減率(c) = {(b)-(a)} / (a) × 100 削減率の対基準年度比 (e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

《原単位を削減目標とする場合》

原単位：売り上げ高 (百万円)

温室効果ガスの種類	基準年度の実績 (a) 平成21年度	目標年度 上段：目標 (b) 下段：削減率 (c) 平成26年度	計画期間の実績 (上段：原単位実績 (d)、下段：削減量の対基準年度比 (e))				
			平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度
エネルギー起源CO ₂	1.649	1.529 -7.3	1.546 6.2	1.759 -6.7	1.467 11.0	1.454 11.8	1.316 20.2
非エネルギー起源CO ₂							
メタン							
一酸化二窒素							
フロン類							
総排出量							
エネルギー消費原単位 (原油換算 k l)	1.306	1.242 -4.9	1.246 4.6	1.212 7.2	1.018 22.1	0.925 29.2	0.8278 36.6
実績に対する自己評価	・既存設備/工程においては省エネ推進はされたが、新規立上げ工程において不十分な部分があった。						

※ 削減率(c) = {(b)-(a)} / (a) × 100 削減率の対基準年度比 (e) = ((a) - (d)) / (a) × 100

4 温室効果ガスの排出の抑制に係る具体的な取組の実施状況

○ 温室効果ガスの排出の抑制に向けた取り組み

	項目	削減量等	具体的な取組み
1	燃料使用量の削減	・A重油使用量の削減 原単位で20% 削減	・塗装ライン 湿度設定変更 ・蒸気配管 保温材 一部更新
2	電気使用量の削減	・電気使用量削減 原単位で5% 削減	・トップランナー高効率トランスへの更新 ・水銀灯廃止⇒Hf蛍光灯へ変更 ・エアーモレ定期チェック、対策実施 ・油圧ポンプモーターのインバーター化 ・冷却水ポンプモーターのインバーター化
3			
4			

○ 温室効果ガスの排出の抑制に関する取組み(環境価値の活用等)

	種類	合計量
1		
2		
3		

○ その他の取組み

	項目	数値目標	具体的な取組み
1	廃棄物削減とリサイクル化	埋立て廃棄物50%以上削減 (2015年)	・熱硬化樹脂の廃棄不良低減 ・熱可塑樹脂の埋立廃棄削減(パーシダンコ'のリサイクル化など) ・一般廃棄物の分別徹底でリサイクル化
		廃プラ発生率 低減 (3.5%以下)	・不良低減 ・即リターン率アップ;長繊維:リターン化など ・ランナーレス化
2	環境負荷物質の管理/低減	環境負荷物質;自主管理計画 (実施率 100%)	・新規部品;環境負荷物質データ入手(測定&登録) ・化学物質の適正管理/MSDSの教育

※ 環境に配慮した実践的な取組みなどをされていれば記入してください。